

Mosun-SC+Pola C1

1コース期間： 21日

所要時間： 3時間

Rp	薬剤名	投与量	投与方法	投与速度	投与時間	day1	day8	day15
1	生食 100mL デキサメタゾン 16.5mg ★ジフェンヒドラミン50mg、アセトアミノフェン1000mg 内服		div	200mL/hr	30分	○		
1'	デキサメタゾン 20mg ジフェンヒドラミン50mg アセトアミノフェン1000mg		p.o				○	○
2	生食 100mL※1 ボラツズマブ ベドチン 【 】mg 注射用水 【 】mg※2 ※1 ボラツズマブ75mg未満の場合：生食50mlに変更 ※2 注射用水(ml)=ボラツズマブ(mg)÷20	1.8mg/kg	div	66ml/h 75mg未満：33ml/h	90分	○		
3	生食 100mL		div	100mL/hr	60分	○		
4	モスネツズマブ 5mg	5 mg/body	sc		30秒～2分	○		
4'	モスネツズマブ 45mg	45 mg/body	sc		30秒～2分		○	○

コメント

- ・モスネツズマブ投与前に前投薬(DEX、ジフェンヒドラミン、アセトアミノフェン)を投与すること。
- ・初回45mg投与開始後48時間は必ず入院管理とする。
- ・ボラツズマブ ベドチンの初回投与でinfusion reactionが起きた場合、次回以降の投与前に前投薬(副腎皮質ホルモン剤、ジフェンヒドラミン、アセトアミノフェン等)を投与すること。
- ・モスネツズマブによるCRSが発現した患者には、CRSが現れなくなるまで副腎皮質ホルモン剤を前投与する。また、サイクルによらず必要に応じてジフェンヒドラミン、アセトアミノフェンの前投与を検討すること。
- ・TLS予防のため、投与時は水分摂取を十分行うこと(投与開始の1～2日前から約2～3L/日の水分摂取開始が推奨される。投与終了後は、少なくとも24時間は150～200mL/hの投与速度での静脈内補液を行う)
- ・TLS発症リスクが低または中程度の場合は、アロプリノール(例：300mg/日の経口投与を本剤投与72時間前から3～7日間)等を投与する。
- ・本剤投与前に尿酸値が上昇した場合、またはTLSのリスクが高い場合は、ラスブリガーゼ(例：0.2mg/kg静脈内投与を本剤初回投与開始前に30分かけて、及びその後5日間)等を投与する。
- ・モスネツズマブは大腿部もしくは腹部に皮下投与(どちらも困難な場合は、上腕部を選択可能)。
- ・C1-2は、モスネツズマブ投与後30分間の経過観察を行う。忍容性が見られればC3以降は15分に短縮可能。

Mosun-SC+Pola C2-6

1コース期間： 21日

所要時間： 1時間

Rp	薬剤名	投与量	投与方法	投与速度	投与時間	day1
1	生食 50mL ★ルートキープ用		div	200mL/hr	15分	○
2	生食 100mL※1 ポラツズマブ ベドチン 【 】mg 注射用水 【 】mg※2 ※1 ポラツズマブ75mg未満の場合：生食50mlに変更 ※2 注射用水(ml)=ポラツズマブ(mg)÷20	1.8mg/kg	div	200ml/h 75mg未満：100ml/h	30分	○
3	生食 50mL		div	200mL/hr	15分	○
4	モスネツズマブ 45mg	45 mg/body	sc		30秒～2分	○

コメント

- ・ポラツズマブ ベドチンの初回投与でinfusion reactionが起きた場合、次回以降の投与前に前投薬(DEX、ジフェンヒドラミン、アセトアミノフェン等)を投与すること
- ・モスネツズマブによるCRSが発現した患者には、CRSが現れなくなるまで副腎皮質ホルモン剤を前投与する。
また、サイクルによらず必要に応じてジフェンヒドラミン、アセトアミノフェンの前投与を検討すること。
- ・C2までは、TLS予防のため、投与時は水分摂取を十分行うこと(投与開始の1～2日前から約2～3L/日の水分摂取開始が推奨される。
- ・モスネツズマブは大腿部もしくは腹部に皮下投与(どちらも困難な場合は、上腕部を選択可能)
- ・C1-2は、モスネツズマブ投与後30分間の経過観察を行う。忍容性が見られればC3以降は15分に短縮可能。
- ・休薬後6週間以上経ってからの再開時は、day1:5mg、day8:45mgで投与を再開し投与すること。

Mosun-SC+Pola C7-8

1コース期間：21日

所要時間：

Rp	薬剤名	投与量	投与方法	投与速度	投与時間	day1
1	モスネツズマブ 45mg	45mg/body	sc		30秒～2分	○

コメント

- ・モスネツズマブによるCRSが発現した患者には、CRSが現れなくなるまで副腎皮質ホルモン剤を前投与する。
また、サイクルによらず必要に応じてジフェンヒドラミン、アセトアミノフェンの前投与を検討すること。
- ・TLS発症リスクが高いと判断した場合は、投与時に予防措置を実施する。
- ・モスネツズマブは大腿部もしくは腹部に皮下投与（どちらも困難な場合は、上腕部を選択可能）
- ・C1-2は、モスネツズマブ投与後30分間の経過観察を行う。忍容性が見られればC3以降は15分に短縮可能。
- ・休薬後6週間以上経ってからの再開時は、day1:5mg、day8:45mgで投与を再開し投与すること。